



小学校

高学年一部教科担任制

【手引き】

〔詳細版〕

令和3年1月26日の中央教育審議会答申において、令和4年度を目処に、小学校高学年からの一部教科担任制の導入が示されました。

- 高学年一部教科担任制とはどのような制度なの？
- 高学年一部教科担任制をどう進めるの？
- 高学年一部教科担任制にはどのようなパターンがあるの？

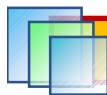
こんな悩みや不安にお答えします！

令和3年2月作成

宮崎県教育庁 義務教育課



高学年一部教科担任制の導入に向けて



国の動向

中央教育審議会（答申）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～より

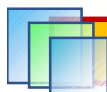
義務教育 9 年間を見通した教科担任制の在り方

〔高学年からの教科担任制の導入〕

- ・義務教育 9 年間を見通した教育課程を支える指導体制の構築が必要である。
- ・各教科等の学習が高度化する高学年では、小学校における学習指導の特長を生かしながら、系統的な指導による中学校への円滑な接続を図ることが求められる。
- ・教科指導の専門性を持った教師によるきめ細かな指導を可能とする教科担任制の導入により、授業の質の向上を図り、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図ることが重要である。
- ・小学校における教科担任制の導入は、教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校教育活動の充実や教師の負担軽減に資するものである。



令和 4 年（2022）年度を目途に本格的に導入する方向性



本県の取組

高学年一部教科担任制モデル校の取組から

宮崎県では、県内モデル校において、研究を進めています。

モデル校研究の目的

※県内モデル校（令和 2 年度：19 校）

- （1） 学級担任が、得意教科を学年（学年部）で責任をもって分担し合うことで、指導教科の専門性や授業力の向上を図り、児童の学力向上につなげる。
- （2） 学級担任が、学年（学年部）全体を指導することにより組織的な取組を充実させ、生徒指導上の課題等の把握に努めるとともに、その課題解決につなげる。
- （3） 学級担任が受けもつ教科を学年（学年部）で分担し合うことで、教材研究等に係る時間を減少させ、児童と向き合う時間の確保につなげる。

高学年一部教科担任制のメリット

モデル校の意見等から、次のようなメリットが考えられます。

〔教師の立場から〕

- 教科指導や生徒指導など、複数の目で児童を見ることができる。
- 特定の教科を指導することで、専門性を高めることができる。
- 児童の中 1 ギャップの緩和が考えられ、中学校へのスムーズな接続が期待できる。



〔児童の立場から〕

- 学級担任以外の先生とも気軽に話ができるようになる。
- いろいろな先生に声をかけられ、励ましてもらえる機会が増える。

小学校で考えられる教科担任制の類型

完全教科担任制

中学校と同じ指導だが、発達段階や指導体制の面から実施が難しい。

特定教科の専科指導

理科、音楽科、体育科等多くの学校で導入されている。

学級担任との教科のT・T指導

複数教員の指導が効果的な場合に導入されている。

今回目指すのは「交換授業」を基本とした指導です！



「交換授業」の例（モデル校の検証から）

モデル校の実践から次のようなパターンが考えられます。



学年ごとの交換授業

P3を参照

特定の教科等（例：社会科、家庭科、総合的な学習の時間等）をそれぞれの学級担任等で分担し、交換授業を行う。



学年部ごとの交換授業

P4を参照

特定の教科等（例：国語科、社会科、算数科、理科等）を4人の学級担任で分担し、時数を調整しながら、2つの学年で交換授業を行う。



隣接学級同士で交換授業

P5を参照

学年を2つに分け、特定の教科等（例：社会科、理科、家庭科、外国語科等）を隣接学級同士で交換授業を行う。



小中連携を生かした授業

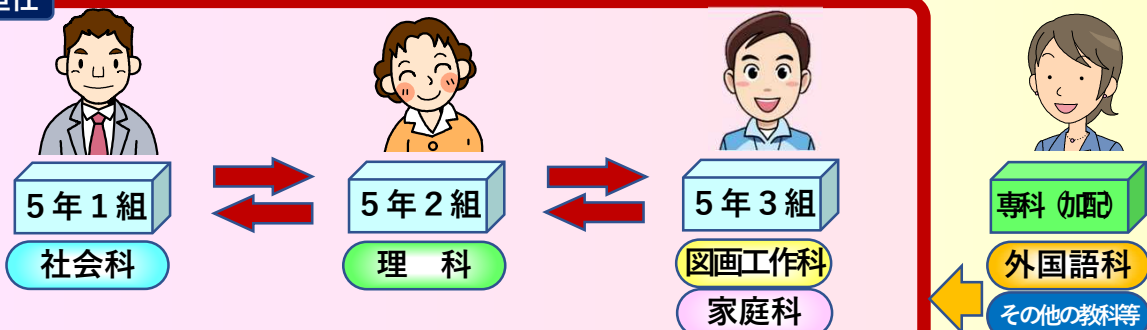
P6を参照

特定の教科等（例：体育科、外国語科等）について、中学校の教員が小学校へ出向き、学級担任と共にT・T指導等を行う。

学年ごとの交換授業の例

【 5 学年 3 クラスの場合 】

学級担任



Point

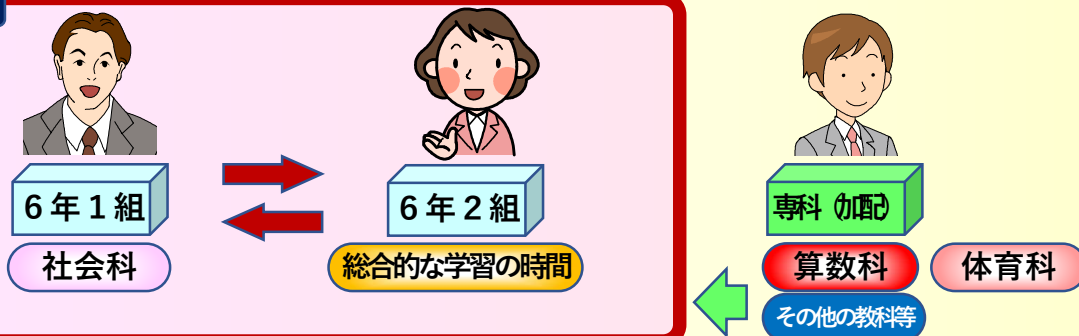
時 数…○ 社会科・理科…週3時間程度、外国語科…週2時間
○ 図画工作科・家庭科…週2時間程度

概 要…○ 特定の教科等をそれぞれの学級担任で分担して、交換授業を行う。

メリット…○ 同じ授業を複数回行うことで、教員自身の専門性の向上につながる。また、学習規律など学年で統一した指導が可能となる。

【 6 学年 2 クラスの場合 】

学級担任



Point

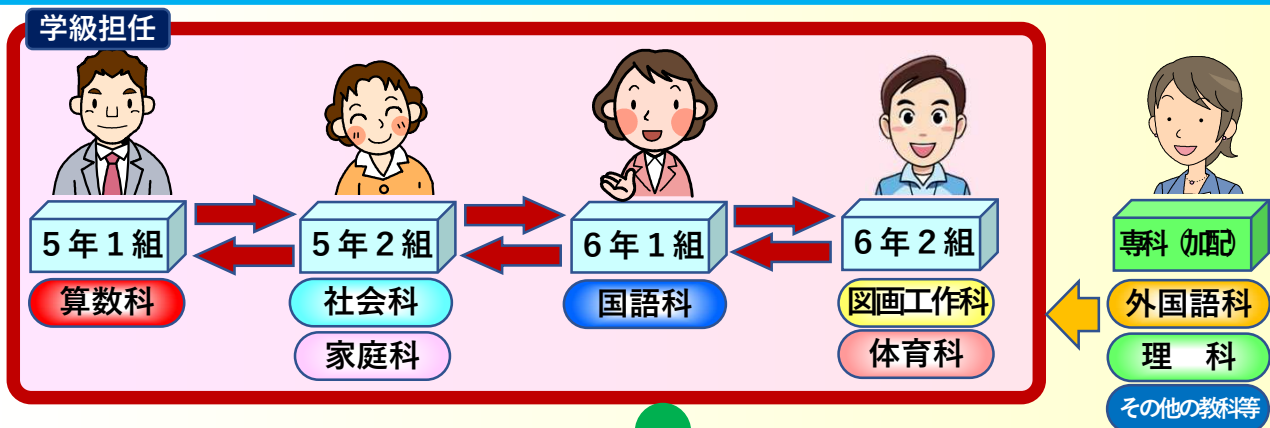
時 数…○ 社会科・体育科…週3時間程度
算数科…週5時間、総合的な学習の時間…週2時間

概 要…○ 学級担任は特定の教科を担当し、専科（加配）教員が複数の教科を担当する。

メリット…○ 上記のメリットに加え、指導する教科が減ることで、空き時間が増え、児童と向き合う時間が確保できる。

学年部ごとの交換授業の例

【 5 学年 2 クラス、6 学年 2 クラスの場合 】



- 時 数** …○ 国語科・算数科…5時間×4クラス…週20時間
 ○ 社会科・理科・体育科…3時間程度×4クラス…週12時間程度
 ○ 図画工作科・家庭科…2時間程度×4クラス…週8時間程度
 ○ 外国語科…2時間×4クラス…週8時間

概 要 …○ 専科（加配）を含めた5人の教員で2学年4クラスを担当する。

メリット …○ 複数の教員が指導することで、様々な角度から児童を見つめることができ、児童一人一人のよさを引き出しやすくなる。また、教科の系統性を意識した指導が可能となる。

Point

【 5 学年 1 クラス、6 学年 1 クラスの場合 】



- 時 数** …○ 国語科・算数科…5時間×2クラス…週10時間
 ○ 社会科・理科…3時間程度×2クラス…週6時間程度
 ○ 外国語科…2時間×2クラス…週4時間

概 要 …○ 5年担任と6年担任が1教科を担当し、専科（加配）が複数の教科を担当する。

メリット …○ 2学年にまたがった教科担任による指導は、系統性をもとに、見通しをもった学習指導を展開することができる。また、専科（加配）が複数教科を担当することで、学級担任の空き時間が生まれる。

Point

隣接学級同士で交換授業の例

【 6 学年 4 クラスの場合 】

学級担任



6 年 1 組

家庭科



6 年 2 組

外国語科



6 年 3 組

外国語科



6 年 4 組

家庭科



専科 加配

理 科

その他の教科等

時 数…○ 家庭科・外国語科…週2時間程度**概 要**…○ 1組と2組、3組と4組の隣接学級同士で交換授業を行う。

○ 理科と（音楽科）は専科教員が指導する。

メリット…○ 時数が同じ教科と組み合わせで交換授業を行うことで、教材研究の時間が軽減されるとともに、学年で同じ教科について指導の在り方を協議することができる。

Point

【 5 学年 2 クラス (加配がない) 場合 】

学級担任



5 年 1 組

社会科



5 年 2 組

理 科



専科指導

音楽（複数学年）

その他の教科等

時 数…○ 社会科・理科…週3時間程度**概 要**…○ 1組と2組の学級同士で交換授業を行う。

○ 音楽科は専科教員が指導する。

メリット…○ 互いの学級を指導するため、教員にとっても学年全員の児童を把握することができる。専科（加配）の配置がない場合でも交換授業をすることで、教材研究の時間を軽減することができる。

Point

小中連携を生かした授業の例

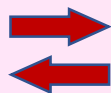
【 6 学年 2 クラスの場合 】

学級担任



6 年 1 組

社会科



6 年 2 組

総合的な学習の時間

中学校
(英語科)

外国語科



Point

時 数 … ○ 社会科…週3時間程度

○ 外国語科・総合的な学習の時間…週2時間

概 要 … ○ 学級担任の交換授業に加えて、中学校の教員が特定の教科を担当する。

メリット … ○ 児童にとっては中学校の専門的な授業を受けることで、中学校の学習へのスムーズな移行が期待できる。

高学年一部教科担任制を行うに当たって

メリットを踏まえ、協議を行う！

これまで示したメリットは、どの交換授業の例にも当てはまるものであり、これらを踏まえ、高学年一部教科担任制の在り方について、学校で十分に協議することが大切です。

専門(得意)とする教科等を生かす！

担当する教科を決めるにあたっては、学年又は学年部の中で、専門(得意)とする教科を参考にしたり、これから一年かけて専門性を高めたい教科にしたりするなど、それぞれの専門性を生かすことが大切です。



週当たりの授業時数を参考にする！

週当たりの授業時数が同程度となるように、教科を組み合わせることで、時間割調整が容易になります。

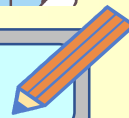


上記は、本県のモデル校の多くの学校で取り入れ、実践を行っています。しかし、高学年一部教科担任制を行うにあたっては、校長先生のリーダーシップのもと、学年や教科を決定していくことが重要です。

ここからは、高学年一部教科担任制を行う際の数多くの疑問について、モデル校の実践を参考にしながらお答えします！



時間割作成の工夫にはどのようなものがありますか？

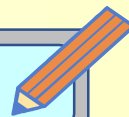


A小学校の実践から

A小学校は、専科（加配）教員がマネジメントリーダーとなり、教務主任や学年主任と連携し、大枠の時間割を調整するなど、短い時間で時間割が作成できるように工夫しています。



児童と向き合う時間は増えますか？



B小学校の実践から

B小学校は、専科指導や専科（加配）教員の配置により、学級担任に週当たり4～8時間程度の空き時間を生み出すなど、児童と向き合う時間を増加させる工夫を行っています。教科等の組合せにより、さらにゆとりが生まれます。



担当学年のみを一年間指導しますか？



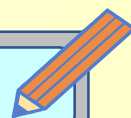
C小学校の実践から

C小学校は、指導教諭を加配教員として配置し、1学期は6学年、2学期は5学年というように、学期ごとに一部教科担任制として指導する学年を変えるなど、それぞれの学年の学力が向上するような取組を行っています。





学力向上につながる工夫はありますか？



D小学校の実践から

D小学校は、指導教諭が5学年・6学年の全てのクラスで指導が行えるように時間割を工夫し、学力向上を目指した指導を充実させるとともに、系統性を生かした実践が行えるよう工夫しています。



高学年一部教科担任制を始めるためにはどんなことが必要ですか？



E小学校の実践から

E小学校は、前年度から先進校視察をしたり、関係職員を集め、校内で推進委員会を数回開いたりするなど、指導が充実するように努めています。実践に向けた準備や指導体制を整えることが必要です。



単式学級等の学校でも実施が可能ですか？



F小学校の実践から

F小学校は、単式学級であり、かつ小規模校のモデル校になっています。5学年、6学年で交換授業を行っており、系統的な指導ができるように工夫しています。単式学級等でも指導が可能です。



この他にも各学校の創意工夫を生かした高学年一部教科担任制の実践が見られます。まずは、どの教科で、どのように進めて行くのか十分に検討し、無理のない指導体制づくりをしていきましょう。

高学年一部教科担任制の成果

モデル校の実践から、高学年一部教科担任制の成果として次のことが挙げられます。

教科や指導方法など、職員間の意見交換の機会が増加した。

担当する教科について、専門性が向上した。

教材研究をする教科の減少で、担当する教科の指導が充実してきた。

時間的なゆとりが生まれ、児童と向き合う時間が増加した。

他の学級の児童ともコミュニケーションを図ることができた。

高学年一部教科担任制を実施することで、学習指導だけでなく、生徒指導も充実することが、全国的にも報告されています。

また、本県におけるモデル校には、加配教員の配置がなされていますが、加配教員の配置がなくても交換授業を行っている学校も増えつつあります。

各学校の実態に合った指導体制を整えていくことが大切になります。



加配教員の配置の有無に関係なく、学校の組織マネジメントにより、高学年の一部教科担任制の実施は可能です。モデル校の取組を参考にして、各学校でも導入を検討していきましょう。



【問合せ】 宮崎県教育庁 義務教育課
義務教育・学力向上担当

TEL : 0985-26-7239

FAX : 0985-26-0721

gimukyoiku@pref.miyazaki.lg.jp